

6/20 (日) 14:00~ 沖縄県立博物館 講堂
(開場は開始時刻の30分前) ・美術館(3F)

かいえんしゃ

海燕社の小さな映画会2021

県の緊急事態宣言発令中は、映画会は中止です

特集：映画監督 野村岳也

神の島・久高島の祭祀 / 1967年 / 49分

『イザイホウ』



…この作品は学術的な興味から撮ったものではありません。何の調査も準備もなく神事の二か月前白紙の状態です。

はじめの一月、私たちは一カットもカメラを回さずただ島を歩きまわっていました。そんななかで私たちは島民と同じような気持ちになっていったのです。

私たちはただ撮りたかったのであり完成させただけで私たちの目的は達していたのです。私たちは神人たちの心を押してまで上映する気はありませんでした。そんな次第で40年間眠らせてしまったのです。

それが2006年、なぜ初めて一般公開に踏み切ったかという、長い年月にイザイホウをめぐる事情が変わっていたのです。イザイホウは1978年を最後に途絶えていたし、私たちが撮った神人たちも殆ど世を去りました。私たちのフィルムも原版は崩れ、プリントだけが傷つきながら残っていたのです。このまま行けば間もなくこれも痛み果て映画『イザイホウ』はほとんどの人が観ることなくこの世から消えてしまうことは間違いありません。そんな時、若い仲間（現在の海燕社の同人）から強力な後押しがあり、作品をDVD化し40年ぶりに最初の上映活動をはじめたのです…(野村岳也「午年メモリアル上映に寄せて」)



映文連アワード2012 文部科学大臣賞受賞 / 48分

『ふじ学徒隊』

学徒隊の方々が85才をこえ、今、撮っておかないと大事な記憶が闇に消えてしまうとそれほど深刻に考えずに撮りはじめた仕事だったが撮影が進むにしたがい、その内容の重さをひしひしと感じるようになった。沖縄戦で多くの女子学徒隊が半数近い戦死者を出した。名高いひめゆり部隊は222名の隊員中123名が戦死した。ふじ学徒隊は25人の隊員中3名の戦死者しか出さず、22人が生還するのである。弾丸乱れとぶ戦場でどうしてこんな奇跡的なことが起こったのか。そこには命と真剣に向き合った人々のドラマが伏在していたのである。

戦が終わって彼女たちは焼野原と化したふるさとの村や町へ帰ってきた。そしてこんなに無傷で帰ったのは自分たちだけなのを知る。最初は生きていることが後ろめたく思われ誰にも何も話さなかったという。しかし時がたつにつれ、次第に生かされたことの意味を思うようになる。16才の少女もやがて恋をし、結婚をし、子が生まれる。この時はじめて「命どう宝」という言葉を実感するのである。生きていてよかった。生かされて有難かった。ふじ学徒隊の人々はようやく重い口を開く。命の大切さを語り、もうあんな戦争はあってはならないと…(野村岳也「映画『ふじ学徒隊』長野県上映に寄せて」)

※特別上映

『映画監督・野村岳也』
(2020年製作 / 12分)



料金：1,500円
完全予約制
※当日券はありません

ご予約は 098-850-8485 or mail@kaiensha.jp 主催：海燕社(かいえんしゃ)

※上映会に参加の際は、マスク着用、検温、手指消毒にご協力ください。当日、熱、咳、だるさを感じたら、来場をお控えください。